

「全がん的な新規治療標的遺伝子異常の探索」研究に参加される方へ

1 研究対象：

2008年～2020年に順天堂医院で悪性腫瘍に対する外科治療を受けた患者

2008年～2020年に埼玉県立がんセンター、栃木県立がんセンター、埼玉医科大学国際医療センターを受診する外来患者および入院患者で悪性腫瘍と診断された患者

2 研究の概要：

がん（肉腫も含む）はしばしば、特定の遺伝子の変異を原因とし、この変異により異常なタンパク質が生じ、細胞の異常増殖を引き起こすとされています。腫瘍生物学の理解が進み、がんの治療が進歩し、特定遺伝子変異を持つがんに対して最適な治療法をマッチングさせることで、治療成績が向上しています。遺伝子プロファイリングは、腫瘍ごとの遺伝子変異の特徴をより詳細に調べることで、がん患者ごとの類似点や相違点を明らかにすることができる検査方法です。このような分子生物学的な取り組み・理解は、将来の医学的判断や治療の指針として役立つ可能性があります。しかしながら、悪性腫瘍において、直接の新規治療の対象となるような遺伝子変異が発見されることは稀です。

本研究は、遺伝子の発現不均衡の検索と免疫染色によるタンパク質の過剰発現の有無を組み合わせることで、効率的に治療標的となる融合遺伝子を探索するものです。

3 研究目的：

本研究の目的は、悪性腫瘍における治療標的となりうる遺伝子異常の発見です。

4 研究期間：

研究許可日～2026年3月31日（埼玉県立がんセンターにおける研究期間）

5 研究の方法：

診療で用いた残余検体を用いて、遺伝子発現解析、RNA シークエンス、RT-PCR などの遺伝子解析、免疫染色によるタンパク発現解析を行います。新規に同定された融合遺伝子は、その癌化能を調べるため、機能解析実験を行う可能性があります。

6 研究に用いる試料・情報の種類：

試料： 診療に用いた残余検体として保存されている腫瘍組織

情報： 年齢、性別、疾患名、無再発期間、治療内容、CT、MRI、肉眼写真、病理規約因子等

7 外部への試料・情報の提供・公表

なし

8 研究組織

順天堂大学医学部人体病理病態学講座 齋藤 剛、末原義之、林大久生

埼玉県立がんセンター 五木田茶舞、神田浩明、元井 紀子、石川文隆

栃木県立がんセンター 菊田一貴、平林かおる

埼玉医科大学国際医療センター 矢澤康男、安田政実

国立がん研究センター研究所 高阪真路

9 個人情報保護に関する配慮：

本研究で用いられる患者さんの組織標本と診療記録、情報は、本研究専用で別途割り当てられた研究登録番号を用いて厳重に管理されます。本研究の結果は、患者さんにプライバシー上の不利益が生じないように、適切に匿名化されていることを確認した上で使用いたします。

10 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

11 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

齋藤剛 (研究代表者)

順天堂大学医学部人体病理病態学講座

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

TEL: 03-3813-3111

五木田茶舞

埼玉県立がんセンター 整形外科

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 780

TEL: 048-722-1111

12 研究代表者

斎藤剛 順天堂大学医学部人体病理病態学講座